



地域の子どものイラスト

ちくちくことばより ふわふわことば ひとり歩き見守り活動に参加して



ひとり歩き見守り隊は
認知症サポーター
キャラバン活動の
一環です。
caravanmate.com

認知症は誰にでも起こりうる脳の病気によるもので、85歳以上では4人に1人はその症状があるといわれています。

認知症とは、いろいろな原因で脳の細胞が死んでしまったりして、脳の司令塔の働きに不都合が生じ、さまざまな障がいが起こり、生活する上で支障が継続している状態を指します。

地域ぐるみで認知症の方を支援する取り組みが進む中、足羽利生苑地域支援部が六条地区ひとり歩き見守り活動事業に参加・協力した様子をお伝えします。

3月19日福井市六条地区

発見・気づきのポイント

- ☑ ちぐはぐな服装や履物
- ☑ 不自然な時間帯に歩いている
- ☑ 道の真ん中を歩いていて危険
- ☑ 道端に座り込んでいる
- ☑ 道路を行ったり来たり困っている様子

3月19日福井市六条地区内で認知症の方への声かけ体験を通して適切な対応を学ぶ模擬訓練を行いました。

地域の方、介護サービス事業者の方、市社協や地区外の方、総勢約110名の参加がありました。

訓練に先立ち福井南警察署生活安全課長より、行方不明者の発見保護には市民の方の方が大切だとのお話がありました。

ポイント教えて！



一緒に行きましょうか？

3つの「ない」

- ① 驚かせない
- ② 急がせない
- ③ 自尊心を傷つけない

訓練ではまず介護サービス事業所の職員によるミニ講座を行い、認知症の方に接するときの3つの「ない」、7つのポイントについて寸劇を交えて説明しました。

具体的な対応の7つのポイント

1. まずは見守る
2. 余裕を持って対応する
3. 声をかけるときは一人で
4. 後ろから声をかけない
5. 相手に目線を合わせてやさしい口調で
6. おだやかに、はっきりした話しかたで
7. 相手の言葉に耳を傾けてゆっくり対応する

次に服装や声かけされたときの反応などを工夫しながら認知症の人に扮して、いろいろなパターンを想定しながら六条地区のそれぞれのポイントを歩きました。

やってみよう



やじるしを目安に体験しました



ちくちくことばより
ふわふわことばで...

声かけ役を体験しました。
3つの「ない」と7つのポイントに
気をつけて声かけしました。
その人の気持ちになって接することが
大事だと思いました。

認知症の方役をしました。
後ろから声をかけられたり、
肩に触れると怖かったです。
方言で話してくれると安心できました。
何よりも「さりげなく自然に」が
一番と実感しました。



顔を見てゆっくりと...おだやかに

認知症の方とかかわる際に注意すべき点をわかりやすく伝えており、模擬訓練の際にはその内容を意識して取り組む姿に地域のたくましさを感じました。こういった取り組みの継続によって、地域のみなさんの認知症に対する理解や対応力が培われていくのだと肌で感じる事ができました。

私たち足羽福祉会も地域の二員として、皆さんが安心して過ごせる地域づくりに貢献できればと思っています。今回学んだことを活かし、地域全体の福祉力の向上につながる地域支援をしていきたいです。

足羽利生苑 地域支援部

錦織 郁裕